

平成 23 年度東北ブロック「環境 NGO・NPO 活動推進・組織運営講座」
震災復興に向けた環境政策提言力向上セミナー 【実施結果の概要】

(1) 目的・趣旨

昨年度、「地域における環境政策提言力」向上セミナーを開催したところ、定員を上回る参加申し込みがあり、また講座の内容についても参加者から高い評価を得た。このことは政策提言というテーマの講座について、環境 NGO・NPO の側に強いニーズがあることを示している。

また、東日本大震災の影響により、被災地ではさまざまな環境問題が深刻化しており、これらの問題は個別の環境 NGO・NPO で対応できる範囲を超えていて、被災地や隣県の環境団体には問題解決のために行政との協働・連携に向けた環境政策提言力が求められている。

本講座は、東北各県（青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島）で環境パートナーシップ推進の中核を担う団体のスタッフを主な対象とし、震災復興のために今地域で必要とされている政策提言力・コーディネート力を養成することを目的として実施した。

(2) プログラム概要

①開催日時

2011 年 12 月 3 日（土）14:00～18:30 4 日（日）10:00～16:00

②会場

1 日目：ハーネル仙台 蔵王

2 日目：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

③対象者及び参加人数

環境分野で活動している団体のスタッフ・会員、環境政策提言・パートナーシップ推進に関心のある方を主な対象とし、23 名が参加した。

④開催プログラム及び講師

【開催プログラム】

○1 日目

- ・開会、オリエンテーション
- ・講義「震災復興へ向けた政策提言のあり方」
- ・各県事例報告「震災復興に関連した環境政策・環境団体の動きについて」、質疑応答、意見交換

○2 日目

- ・ワークショップ①（県別作業 1：政策の拡充が求められているテーマ・課題のリストづくり）
- ・ワークショップ②（全体作業 1：ポスターセッション）
- ・ワークショップ③（県別作業 2：優先度の高いテーマ・課題についての政策立案計画づくり）
- ・ワークショップ④（全体作業 2：ポスターセッション）
- ・質疑応答・ふりかえり・総括・アンケート記入

【講師】

川北秀人さん IHHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表

(3) 実施概要

1 日目

セミナーは講師の川北秀人さんの講義「震災復興へ向けた政策提言のあり方」から始まった。

NPO の本来の活動は、見えない課題を可視化し、課題を解決するしくみを作り、提案し、社会を変えていくこと。そのためにはデータや社会の動きを把握することが大切であり、事業をつくることはできるが、政策提言ができていないのではないかと、NPO の本質に沿った政策提言のあり方についてお話いただいた。

講義のあと、震災に関連した各県の環境政策と環境団体の動きについて、「放射能汚染」「移動・交通」「エネルギー」「水環境」「生態系の保全」「廃棄物」「その他」の7つの項目で、各県の環境パートナーシップ団体に発表してもらった。発表団体は、福島県の（特）超学際的研究機構、山形県の（特）環境ネットワークやまがた、宮城県の（財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、岩手県の（特）環境パートナーシップいわて、秋田県の（一社）あきた地球環境会議、青森県の（特）青森県環境パートナーシップセンターの6団体。各県とも放射能汚染やエネルギーに関することが共通の課題になっている。

事例報告の内容を元に重要な論点について講師よりコメントしていただいた。NPO が働きかけを行うのは行政だけでなく、企業・個人・市場も対象になる。社会のニーズの変化に対応できていない規制をクリアするために構造改革特別区域（特区）が利用できる。東日本大震災の復興対策として、今回導入されることが決まっている復興特別区域（復興特区）を活用し、規制を緩め、大きな成果をあげることも可能であるとお話だった。1日目の終わりに各自で「気づいたこと・学んだこと」「現場に戻って伝えたいこと」を書き出し、グループで共有した。

2 日目

2日目は、1日目をふりかえるところから始まり、エコドライブの普及や100万人のキャンドルナイトキャンペーンといった具体的な事例をもとにお話いただいた。

その後、これまでの講義の内容を受けてワークショップを行った。

ワークショップ①では各自で政策の拡充が求められているテーマ・課題のリスト作りを行った。自分を取り組みたい課題の特徴とそれを取り組む上での政策上の課題、課題への現在の主な政策を書き出した。

書いた内容をもとにワークショップ②では「宮城県内の環境関連の課題」「宮城県内の環境以外の課題」「宮城県以外の環境関連の課題」「宮城県以外の環境以外の課題」で3～4人のグループを作り、政策の拡充が求められるテーマ・課題の求められる実践、既存の政策、求められる政策をまとめた。環境関連の課題ではCO2削減や省エネ対策、環境以外の課題では、仮設住宅のコミュニティづくりなどがあがった。

ワークショップ③では②で出されたテーマ・課題について、相互に「気づきを与える質問」「改善・工夫のヒント」を付箋に書きコメントを付け合った。

ワークショップ④では、優先度の高いテーマ・課題について3～5年後の目標、求められる政策と政策立案計画をグループで作成した。

ワークショップ⑤では、政策立案計画について「実現するための質問」「調べるべきポイント」を付箋に書きコメントを付け合った。

ワークショップを通して、政策レベルの提案をするためには、課題を明らかにし、目標を立て、そのためにすることを具体的にすることが必要であることを体験した。

その後、参加者が個別にアンケート及び「気づいたこと・学んだこと」「現場に戻って伝えたいこと」を記入し、グループごとにふりかえりの共有を行った。

最後の総括では川北さんより自分にとって本当に必要なことであれば意識を変えるのではなく行動を変える必要があり、まずはスケジュールに落とし込むことから始めてはどうかとの提案があった。

今回の講座をきっかけに、参加者からは具体的な政策提言にチャレンジしたいとの声があり、当センターでも今後、政策提言や調査についての相談対応を強化していきたい。

(4) 参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・環境団体だけでなく、様々な団体の参加を望みます。協働して、その場で次の行動に落とし込めると楽しい。ex.学校でのエコ→学校、教育関係団体いると話が早そう。
- ・このように集まったメンバーで、実際に政策提言が行えたら、いいですね。とっても、いいメンバーとの実施となりそうです。
- ・ハードルの高い講義ではありましたが、聴講必須だったと思います。NPO のミッションと根拠となるデータがしっかりリンクすることでより良い活動になると思います。

(5) 当日の写真



1日目 講義の様子



2日目 ワークショップ③の様子